

申請者の現状(基本情報)(例)

作成日	平成29年11月20日	相談支援事業者名	A相談支援センター	計画作成担当者	藤川雄一
-----	-------------	----------	-----------	---------	------

1. 概要(支援経過・現状と課題等)

前職を解雇となり、失業保険の終期も見えてきた頃、たまたま街で出会った中学時代の同級生が就業・生活支援センターの支援を受けていることを知り、自分も相談できないかと相談したことから福祉の支援とつながる。連戦連敗の就職活動に落ち込んでいたり、新しい職種への挑戦に恐怖感があったことから、就労移行支援を使うこととなった。また、この時期に成人判定を行わなかった療育手帳の再取得や障害年金の申請などを行う中で、相談支援事業所の支援も開始される。

自信を取り戻した後は、現在の物流倉庫でのピッキングの仕事に就いて現在に至っている。就労も安定していることから、本人の希望もあり一旦終結していた。

○年○月(2ヶ月前)、本人が父母に連れられる格好で来所。父母は困った様子で「もう息子と一緒に暮らせない。自分たちは半年後を目途に田舎に帰る。息子(源一郎)は施設に入りたい。」「最近、お金の無心がひどい。拒否すると、執拗に要求したり、物に当たったりするようになってきた。自分たちに手を挙げることはないが、体が大きいので怖い。」と訴えたことから相談が再開。

話を整理する中で、父母の主訴は自分たちが故郷に戻らなければならない事情があることがわかり、先行きの不安が最も強いことがわかった。また、これまでの生活は様々なことを親が抱えて支援しており、本人は自分の経済状況などを把握していなかったため現状の問題が起きていると整理された(経験していないだけで、様々なことが本人はできるようになると考えられる)。今後の両親からは独立して暮らせるような取り組みを本人とすすめ、それを側で体感してもらうことで親の安心にもつながると考えられる。見通しがたつまでの期間、委託相談支援と併設の計画相談支援センターの担当が支援にあたる。

2. 利用者の状況

氏 名	長州源一郎	生年月日	昭和45年11月11日	年 齢	47歳
住 所	東京都〇〇市△▽ヶ丘1-2-3 都営住宅501			電話番号	090-0000-0000
	[持家・借家・グループ/ケアホーム・入所施設・医療機関・その他()]			FAX番号	無
障害または疾患名	知的障害(中度)	障害程度区分	区分3	性別	男 ・ 女

家族構成 ※年齢、職業、主たる介護者等を記入

・父母とも年金生活、無職。
・現在、自宅での家事等は父母が行っている。

・姉家族は隣県に居住。夫婦とも公務員。月1回前後週末に訪れる。

社会関係図 ※本人と関わりを持つ機関・人物等(役割)

・これまで本人は公的機関や公的支援ではなく、家族や会社、友人などとの関わりの中で暮らしてきた。

生活歴 ※受診歴等含む

〇〇市で出生。幼稚園から小学校では当初通常学級に在籍するが、4年次に勉強についてゆけなくなり、特殊学級に移る。中学校は、特殊学級に在籍し、楽しい学校生活を送った。いじめも多少は受けたが、ひどくはなかった。

中学卒業後すぐ食品機械の部品製作メーカーに就職。工場での金型プレスやバリ取り、製品の箱詰めの仕事に従事していた。30年ほど勤務していたが、工場が海外移転することになり、人員整理で解雇となる。その後、失業給付を受けながらハローワークに通い、再就職を目指していたがうまくいかないことが続いた。そのため、福祉の支援とつながり、就労移行支援などを利用しながら再就職。現在の物流倉庫でのピッキングの仕事に就いて現在に至っている。

乳幼児期に数度てんかん発作があった。大人になってからはなし。

医療の状況 ※受診科目、頻度、主治医、疾患名、服薬状況等
△△医院 内科 1/3M K医師 高血圧 服薬有

本人の主訴(意向・希望)

「仕事を続けたいです。」「プラレールや電車が好きです。」「(将来と言われても)よくわかりません。」「(今の生活は)このままがいいです。」

家族の主訴(意向・希望)

「私たちがいなくても、姉に迷惑をかけず暮らせるようになってほしい(入所施設で暮らしてほしい)。」「(本人が大柄なため)最近、執拗に何かを要求されると怖い。」

3. 支援の状況

	名称	提供機関・提供者	支援内容	頻度	備考
公的支援(障害福祉サービス、介護保険等)	相談支援(委託)	A相談支援センター	本人および父母の相談支援	週1～10日に1回	
その他の支援	※会社や友人などのインフォーマルなものがほとんどである。				